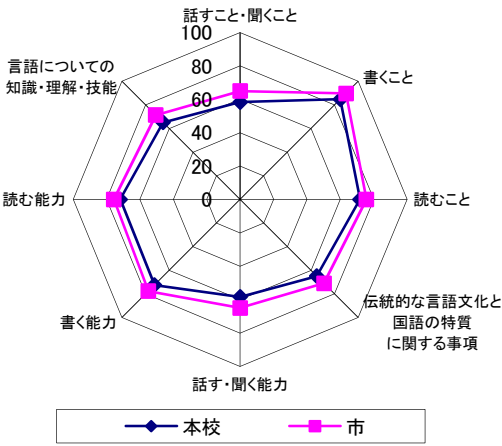


宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	58.3	64.9	69.8
	書くこと	84.8	89.8	81.9
	読むこと	71.8	75.6	75.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.0	71.0	75.0
観点別	話す・聞く能力	58.3	64.9	69.8
	書く能力	72.6	77.7	73.7
	読む能力	71.8	75.6	75.1
	言語についての知識・理解・技能	65.3	71.4	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

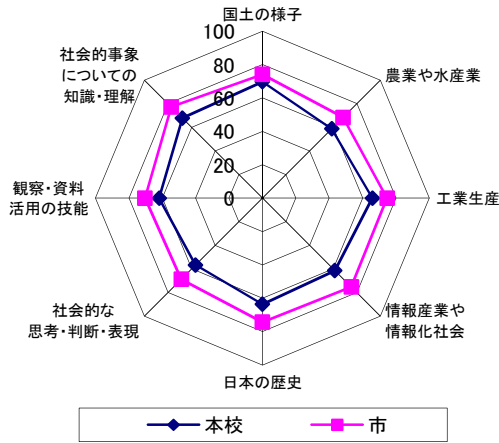
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞く問題では正答率97.0%で、平均正答率は市の平均よりも0.8ポイント下回った。司会者の役割を理解して、立場や意図を明確にした話し合いにおける選択及び記述問題の正答率についても市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合いの活動において、司会者の役割を確認したり、司会の役割を輪番で全員が取り組めるようにしたりして、司会者の役割を、具体的な言葉を指導しながら、体験的に理解できるようにする。また、また、朝の1分間スピーチなどで、自分の考えを話せるよう、普段から指導していく。
書くこと	○指定された長さで文章を書く設問では、平均正答率は、市の平均よりも2.4ポイント下回ったが、全国正答率は9.4ポイント上回った。 ●自分の意見とその理由を区別して書く問題では、正答率90.9%で、平均正答率は市の平均よりも4.6ポイント下回った。	・制限された字数で書くことや内容についての指定を意識して書くことはできるようになってきたが、段落の構成についての指導を改めて行っていく。
読むこと	○物語の登場人物の心情を読み取る設問の平均正答率は、市の平均を2.6ポイント上回った。 ●場面の描写を読み取ったり、叙述を味わいながら読み取ったりする設問の正答率は市を下回った。また、説明文では、内容を的確に読み取る設問の正答率は、市を下回った。	・問われていることが問題文のどのあたりに書かれているのか見通しがもてるように問題文にもサイドラインを引かせる。次にキーワードを見つけ、正答を導いていくような習慣をつけさせる。また、文章の構成を意識し、段落ごとのつながりを意識して筆者の考えを読み取っていくよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●漢字の読み書きや三字の熟語の構成、敬語についての設問の平均正答率は、市の平均を下回った。 ○述語についての設問では、平均正答率は、市の平均を6.3ポイント上回った。	・敬語については、普段の会話の中で指導していく。特に先生方と話をする際に、尊敬語や謙譲語の特別な言い方ができるようにしたり、授業中の発言の中で、敬語を使っていくようにしたり日常的に敬語を指導していく。 ・朝の学習や宿題などで、漢字練習を多く取り入れる。定期的に漢字の小テストを行い、確認しながら復習していく。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	69.7	74.1	72.5
	農業や水産業	58.7	68.4	61.6
	工業生産	65.9	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	61.4	75.3	74.0
	日本の歴史	63.6	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	56.7	68.7	64.2
	観察・資料活用・技能	61.8	70.3	68.1
	社会的事象についての知識・理解	67.9	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

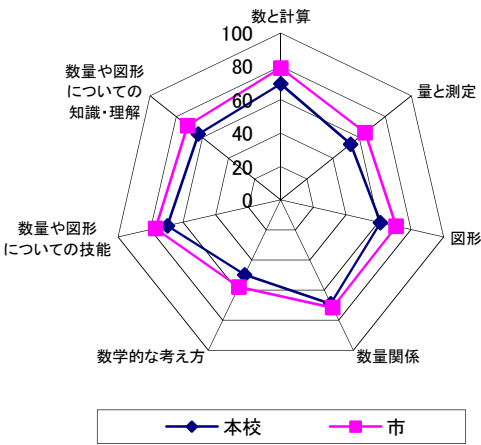
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●日本周辺の海洋名についての設問の平均正答率は、市の平均を2.5ポイント下回った。グラフの把握、日本海側の地域の暮らしについての設問でも正答率が下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・社会科の最後の単元「世界の中の日本」の学習で、世界とのつながりを学習するので、その際にもう一度国土の位置や周囲の海洋、近隣諸国等について復習する。 ・今後も国土の地形や気候などについて関心をもたせ、日常生活の中でも機会をとらえて指導を継続していく。
農業や水産業	○「日本の食糧生産」の食糧生産に関する地図の読み取りの問題では、平均正答率は、市の平均を0.7ポイント上回った。 ●米作りの地域の特色や品種改良についての設問の平均正答率は、市の平均を18.2ポイント下回っていた。	・資料を活用して考察し、理由を記述することに課題が見られるので、今後も地図帳や資料集を多く活用し、複数の資料を比較、関連させて考えていく習慣が身につけられるようにする。
工業生産	●「工業生産と工業地域」の自動車の生産工程や日本の工業地帯や工業地域の特色についての設問の平均正答率は、市の平均を下回っていた。	・日本の食料生産や工業生産について、資料の見方や判断の仕方を指導していく。また、6年社会の最後の単元で、世界とのつながりを学習するので、その際に日本の産業の特徴や輸出入品目等について確認する。
情報産業や情報化社会	●「わたしたちの生活と情報」の情報の利用の仕方や情報ネットワークについての設問の平均正答率は、市の平均を下回っていた。	・情報を利用する際のメリットをコンビニエンスストアの例だけでなく、様々な職種で生かしていることを実例をあげて指導していく。
日本の歴史	○「縄文時代～平安時代」の法隆寺についての平均正答率は、市の平均を0.9ポイント上回った。 ●「鎌倉時代、室町時代」「安土桃山時代、江戸時代」「明治時代、大正時代」の設問の正答率は、市の平均を下回った。	・年表の読み取りの理解が不十分であるので、前の時代と比較させ、変化した点などを見つけさせていくことで時代の特徴や共通点などを整理していく。 ・授業の初めの5分間や朝の学習の時間などで歴史上の人物について正しく理解できているかの小テストを行い、内容を確認しながら復習していく。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.5	79.0	78.9
	量と測定	53.6	64.6	66.2
	図形	61.2	70.9	77.8
	数量関係	69.0	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	49.8	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	69.7	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	63.1	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

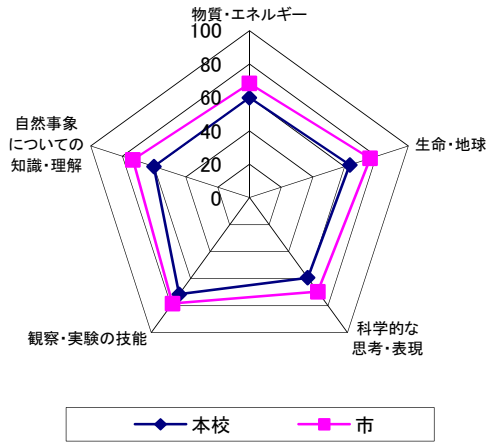
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●小数のかけ算や分数の引き算・かけ算・わり算の問題は、市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の除法の文章題では、今後も数直線にかく習慣を身に付けさせ、正しい立式ができるよう図から関係性を導けるように指導していく。除法に限らず、乗法でも説明ができるように合わせて指導していく。
量と測定	●平均正答率は、市の平均を下回っている。分速を時速に直す問題や平行四辺形や台形、円の面積を求める問題では、10ポイント程度、市の平均を下回っている。特に、小屋の面積1㎡あたりの牛の数を求める問題は、校内正答率が14.4%と低く、市の平均を14.1ポイント下回った。	・公式が正しく定着していない児童も見られることから、練習問題を数多く解くように心がけさせる。また、速さや単位量あたりの値を求める問題も数直線を使って考えさせたり、公式を自分で導き出せたりできるように指導していく。
図形	○平行四辺形について線対称か点対称かを正しく説明した文を選ぶ問題では、市の平均を1.4ポイント上回っている。 ●合同な三角形を作図する問題では、平均正答率は、市の平均を6.4ポイント下回っている。特に、円の直径をもとに円周を求める問題では正答率が31.8%と全国の正答率を大きく下回っている。	・円の円周や面積を求める公式が正しく定着していない児童も見られることから、図形の基本的な性質を再確認するとともに、円の性質に関わる公式を復習する。
数量関係	○文字を使って2つの数量の関係を表す問題では、市の平均を3.3ポイント上回っている。 ●比例・反比例や割合と比の問題の平均正答率は、市の平均を下回った。	比の単元では、数直線や比の性質を使って、分かっていることを明らかにしてから問題に取り組むようにする。また、自分の考えた式が説明できるよう普段から言語活動を充実させる。 ・教科書巻末の「算数のまとめ」を学習する際、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むように復習する。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.8	68.3	68.1
	生命・地球	63.2	76.0	73.8
観点別	科学的な思考・表現	59.4	69.7	68.0
	観察・実験の技能	71.6	78.4	77.0
	自然事象についての知識・理解	60.2	73.4	73.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市の平均を下回っている。 ○同じ量の食塩とミョウバンを水に加えたときの 溶け方についてはよく理解できていた。 ●水溶液の性質から、何の水溶液かを推測したり、 水溶液をリトマス紙につけた時の変化を指摘 したりすることについて理解が不足しており、誤 答が見られた。	・知識だけでなく体験を通して理解ができるように、実験 を多く取り入れる。合わせて、実験の目的や方法など計画 を自分たちで立てられるようにする。さらに、知識の定着 を図れるように映像資料なども活用して指導していく。
生命・地球	●市の平均を下回っている。 ○上弦の月が南中する時刻や月の形の見え方を についてはよく理解できていた。 ●肺を通した気体の受け渡しや体内の臓器の形 や位置について理解が不足しており、誤答が見ら れた。	・「太陽と月の形」では、正しく位置関係が理解できるよう に実験・観察ができるような教材を工夫していく。また、 記述式の問いでも答えられるよう小テストなどを実施し、 確実に理解できるように指導していく。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの